



# 南町小だより

つよく かしく あたたく

平成26年6月30日

校長 福田 俊彦

## 6月のことから

校長 福田 俊彦

「自分を大切に 友達を大切に」「自分の命は自分で守る」で始まった4月。6月は、今年度最初の「ふれあい月間」でした。子供たちには4月のことを思い起こさせ、全校朝会、昼の放送「校長先生の今日のひとこと」などの場で、自分を大切にすること、友達を大切にすることを伝えてきました。6月を振り返るために、今日の全校朝会では次のように話しました。

思い出してみましよう。みんなで話し合い、みんなで決めたことをやり遂げたときの気持ちを。学校や学級のためにしなければならないことをしたときの気持ちを。互いのがんばりやよいところを認め合ったときの気持ちを。一人ひとりが大切な仲間です。一人ひとりが大切にされる南町小学校です。自分を大切に、友達を大切に。そして、よりよい南町小学校をみんなで創っていきましょう。

子供たちは、生活の中で、多様な場面に出会います。その多くが人間関係を基盤としています。うまくいくこともあれば、うまくいかないこともあります。大人の社会でもそうでしょう。その時、どうしてこのようなことになったのか、これからどのような言動をしたらいいかについて考えることも大切な学習のひとつです。

さて、6月から水泳の指導が始まりました。水泳に対する子供の思いを聞くことができました。その言葉の中に、水泳を学習するための心構えを見つけました。「目標」「練習」「努力」そして「安全」です。これらは、全校の子供たちを代表した5年生の話の中に出てくるものです。これまでの水泳に取り組んできた経験がしっかりと言葉に表されていたことをうれしく思いました。

昨年度の自分より今年度の自分は、「50m泳げるようになりたい。」そのために自分は「先生や6年生の話を聞き、練習に取り組む。」そこでは「安全に学習することが大切。」このことは、子供たちに繰り返し話をしてきたことです。子供が、自分の言葉として、全校の子供たちに語ることは、子供の成長を感じる場面にもなりました。

授業での水泳指導、夏期休業中に行う水泳指導を、安全に、子供が前向きに取り組めるよう積み重ねていきます。その積み重ねが子供の力を伸ばすこととなります。水泳指導を通して得ることができる泳力はもちろんのこと、「自分の命は自分で守る」という力は、地域や家庭でも活かせるものです。

今後も、「自分を大切に 友達を大切に」「自分の命は自分で守る」教育に力をいれて参ります。